

# 図工，美術科 1～6段階

図工科，美術科の目標（上段は学習指導要領からの目標，下段は本校での指導の形態ごとの目標）

小学部	初歩的な造形活動によって，造形表現についての興味や関心をもち，表現の喜びを味わうようにする。
中学部	造形活動によって，表現及び鑑賞の能力を培い，豊かな情操を養う。
高等部	造形活動によって，表現及び鑑賞の能力を高め，豊かな情操を養う。

## 内容の構成（観点の構成）

小学部相当	1段階	造形遊び			6 2
	2段階	表現	材料・用具		6 2
	3段階				6 4
中学部相当	4段階			鑑賞	6 4
高等部相当	5段階				6 6
	6段階				6 6

図工・工作 1, 2段階

観点 段階	造形遊び			
	内容	指導内容	内容	指導内容
1 段階	(1)かいたり、つくったり、飾ったりすることに興味をもつ。	・なぐりがきをしたり、かかれた形に意味付けをしたり、見たことや見えるものをとらえた色や形で表したりする。	(2)土、木、紙などの身近な材料をもとに造形遊びをする。	・身近にある土、砂、石、粘土、草木の自然物や、紙、布、積み木、アルミ箔、空き缶の人工物で、主題がなく、素材に親しんだり、絵画につながるなぐりがきを楽しむような遊びを行う。
		・いろいろな素材に触れ、形を変えたり、つくったりして、素材の可塑性に興味・関心をもって楽しむことができる。		・教師と一緒に、動植物、乗り物などを題材にする場合に適した材料を選択したり、必要な用具に興味をもつ。
		・飾り付けを手伝ったり、作品に名札を付けたりする活動を通して、児童が飾る楽しみに関心をもつ。		

観点 段階	表現		材料・用具	
	内容	指導内容	内容	指導内容
2 段階	(1)見たことや感じたことを絵にかいたり、つくったり、それを飾ったり、使ったりする。	・見て感じたことを児童自身の表現としてまとめることができる。	(2)粘土、クレヨン、はさみ、のりなどの身近な材料や用具を親しみながら使う。	・身近な自然物や人工物のほか、新素材のボード、粘土、石、紙、針金、プラスチックなどの造形材料や、クレヨンや水彩絵の具、カラーペン、のり、粘着材、ステープラー、はさみ、へら、シャベルなどの用具を使い慣れる。
		・身近な人、動植物、自然、体験したことなどを題材にして、生活の広がりを写し取り、クレヨンや水彩絵の具、カラーペンなどを使って表現したことが、他者に伝わるようにする。		
		・版画では、器物の型を押したり、スタンプングを連続して模様をつくったりする。		
		・見たり感じたりしたことを簡単な工作物につくり、自己表現をする。		
		・人物、動植物、ロボット、面、模様などを題材にして、粘土、紙材、草木、アルミ箔、箱、空き缶などを用い、のり、粘着剤、ステープラー、はさみ、へら、シャベルなどを使って活動する。		
・教師と一緒に作品を、教室や廊下に掲示する。				

観点	観賞	
段階	内容	指導内容
1 段階		1段階の鑑賞は造形遊びに含めて扱う

観点	観賞	
段階	内容	指導内容
2 段階		1段階の「造形遊び」は、造形活動の初歩的な段階であり、表現、材料・用具、鑑賞を含む活動である。2段階では「表現」と「材料・用具」を観点とし、3段階では「表現」、「材料・用具」と「鑑賞」の観点から示している。 (学習指導要領解説 P309)

図画・工作3段階 美術4段階

観点 段階	表現		材料・道具	
	内容	指導内容	内容	指導内容
3 段階	(1)見たこと、感じたことや想像したことを工夫して絵にかいたり、つくったり、それを飾ったり、使ったりする。	・色や形を工夫して表現内容をより確かに伝えたり、想像したことを表現するために、主題を明確にして題名を付けたり、説明したりする積極的な造形活動をする。	(2)いろいろな材料や用具を工夫しながら、目的に合わせて使う。	・材料や用具の種類を増やし、表現の意図に即した材料や用具の選択幅を広げたり、工夫したりして、表現を豊かにする。
		・共通した経験を共同でかいたり、つくったりする。		・繰り返し経験することで、材料の性質が分かり、用具の使い方を習得する。
		・学校行事で使う飾りや道具を協力してつくる。		・造形材料としては、大きさ、硬さ、塑性などが異なる材料や、ゴムや板材、造形材料としての開発された新素材、用具としては、かなづち、ペンチ、のこぎり、きり、小刀、くぎ、ねじ、接着剤など日常生活で扱われる簡易な木材加工用具、金属加工用具など、材料・用具の選択や使い方を工夫する。
		・動物や器物の特徴をとらえて粘土などで表現を工夫したり、紙や木、針金やゴムなどを使って、簡単な動くおもちゃをつくったりする。		
	・作品に愛着をもち、大事にしたり、使って楽しんだりする。			
	・作品を飾る楽しさや実用品として使用する楽しさを味わう。			

観点 段階	表現		材料・道具	
	内容	指導内容	内容	指導内容
4 段階	(1) 経験や想像をもとに、計画を立てて、絵をかいたり、作品をつくったり、それらを飾ったりする。	・対象をよく見て、色や形などの特徴をとらえたり、感じたことを材料や絵の具の性質、用具の特長を生かしたりして絵や版画で表現する。絵や版木の題材としては、静物や風景の観察や描写、学校行事や社会行事などの印象、想像画などがあり、版画の方法としては、木版、ゴム版、リノリウム版などを扱う。	(2) いろいろな材料や用具などの扱いを理解して使う。	・絵にかいたり、版画にしたり、平面のデザインをしたりする際の材料や絵の具などを理解して使う。主な材料は、粘土、紙、石、布、木、金属、プラスチック、リノリウム、ニス、水性・油性塗料など、また、建築、土木工業用の資材なども使う。
		・知らせる事項を考え、色や形の組合せを工夫し、模様や装飾に関心をもち、伝達機能をもつポスターなどの平面デザインをする。デザインの題材としては、ポスター、案内表示・標識、表紙装丁デザイン、カット、模様・装飾などを扱う。		・主な用具は、水彩用具、塗装用具、接着剤、彫刻刀、簡易な木材・金属加工用具、糸のこ盤や研磨機などの電動工具などを使う。
		・生徒の感性や、材料の性質、用具の特性を生かして、彫刻などの立体に表すことや、工芸品の制作などでは制作工程や手順が分かり、完成の見通しをもって生活に役立つ器をつくる。		・材料や用具の性質や機能をよく知って使うことや、いろいろな材料や用具などを繰り返し経験することであり、同時に技能も習得する。
		・人、動物、乗り物、建物など、工芸品の題材としては、箱、筆立て、ペン皿、焼き物の器物などを扱う。		
	・つくった作品を教室や廊下の掲示板に展示することや、実際に使用して、造形表現が生活に役立つことを経験し、関心を深めたり、愛着心をもって扱ったりすることができる。			

観点	観賞	
段階	内容	指導内容
3 段階	(3)友達と作品を見せ合ったり、造形品などの形や色、表し方の面白さなどに気付いたりする。	・自他の作品に題名や名前を付けて飾ったり、作品を見ながら表現した内容を説明したり聞いたりして、いろいろな表現の違いに気づき、関心をもつ。
		・よさや美しさ、面白さなどを感じて、見方や感じ方を豊かにし、鑑賞活動に親しむ。  ・工作物や自然の風景などを見て、形や大きさ、明暗などによる色合いの違いに気づき、興味・関心を抱く。

観点	観賞	
段階	内容	指導内容
4 段階	(3)自然や造形品の美しさなどに親しみをもつ。	・季節や気候によって変化する自然に関心を持ち、景色の形や彩りの美しさを感じる。
		・造形作品に表現されている色や形、用途や装飾などに関心をもって、表現の面白さや美しさを感じる。

美術 5. 6段階

観点 段	表現		材料・道具	
	内容	指導内容	内容	指導内容
5 段階	(1) 経験や想像をもとに創造的に絵をかいたり、作品をつくり、それらを飾ったりする。	・絵や版画では、心情や考えを自分の感性で組み立てる想像画や見たこと、感じたことを誇張する表現に取り組む。	(2) いろいろな材料の性質や用具などの扱い方を理解し、工夫して使う。	・いろいろな材料や用具を扱う経験を通して、性質や機能を理解し、技能を習得する。
		・デザインでは、学校行事の案内や生徒会活動などで取り込まれる標語ポスター、表示物、コラージュなどに取り組む。		・材料の選択や使い方を変えて新しい表現を試みる。
		・彫刻や立体の表現では、木や粘土による彫刻、ペーパークラフト、モビール、オブジェなどに取り組む。		・中学部で取り扱ってきた造形材料及び用具との関連を図り、扱い方に慣れ、工夫することに気付く。
		・生活に役立てる器物や装飾品では、陶芸や七宝焼きなどに取り組む。		

観点 段階	表現		材料・道具	
	内容	指導内容	内容	指導内容
6 段階	(1) 経験や想像をもとに、様々な技法などを用いて、創造的に絵をかいたり、作品をつくり、それらを飾ったりする。	・かくことに関する表現方法としては、素描き、水彩画、版画、切り絵、デザイン、さらに、版画の方法として、木版、孔版、シルクスクリーンなどがあり、それらに取り組む。表現技法としては、淡彩、スケッチ風の表現、輪郭線による表現、平面的な表現、光と影による立体的な表現、重ね塗りやぼかし表現、コンピュータを用いた画像による表現などに取り組む。	(2) いろいろな材料の性質や用具などの扱い方を理解し、適切に使う。	・多様な用具や新しい造形材料についての経験を広げる。
		・つくることに関する表現方法としては、彫刻、陶芸、木材・金属加工、さらに、彫刻など立体では、粘土、石、木材、金属などを造形材料とした彫刻、テーマのあるモニュメント、工芸では、食器や花器、置物、箱物の装飾などがあり、それらに取り組む。表現技法としては、削り出し、成型・焼成、切断・接合・組立てなどに取り組む。		・新しい材料や道具、機械などについての正しい知識、理解をもって使う。
				・新しい材料としては、軟質、硬質のプラスチック、地域の産業で製造される金属や科学素材、自然木や自然石などを扱い、用具としては、コンピュータ、製図機、電動工具、ハンマー、鑿、シルクスクリーン用版画用具などを使う。

観点	観賞	
段階	内容	指導内容
5 段階	(3) 自然や優れた造形品を鑑賞し、その美しさなどを味わう。	・風景や季節の自然事象、動物や植物などの自然物に触れたり、身近な生活の場や街中にあるいろいろな彫刻、オブジェ、建築物、絵画、版画、デザイン作品、工芸品などを見たりして、それらに関心をもつ。
		・作品の色合いや配色などの美しさだけでなく、その個性やその面白さなどにも気付く。

観点	観賞	
段階	内容	指導内容
6 段階	(3) 自然や優れた造形品を鑑賞し、美しさなどを味わうとともに、地域の伝統工芸品に関心をもつ。	・風景や季節の自然事象、動物や植物などの自然物に触れたり、身近な生活の場や街中にあるいろいろな彫刻、オブジェ、建築物、絵画、版画、デザイン作品、工芸品などを見たりすることにより、それらを味わう。
		・色合いや配色、形の特徴や組合せ、材質や地肌の感触、用途や機能など様々な観点から、そのよさや面白さなどに気付き味わう。
		・伝統工芸品の、紙工芸、漆工芸、陶芸、竹や柳細工、藁や蔓細工、地域で産出する木材や石材を使った置物、鉄を使った鋳造品などについて、そのよさや美しさを味わう。